大多尾（おおたお）

古（いにしえ）より伝わる海と山のハーモニー

■お問い合わせ
大多尾地区振興会 ☎0969(46)2445

⑯如意輪観世音（にょいりんかんぜおん）
屏風連山の慘愧山中に、その昔山に出た父を探しに行ったきり帰ってこなかった孝行娘を偲んで建立され、毎年3月18日を恒例として地元で祀られています。

④麟泉宮（りんせんぐう）
小西行長軍勢の攻撃に戦意を喪失し、志岐麟泉は密かに城を抜け出し、麟泉の一族で出水の島津義虎に援軍を求めて対岸の大多尾の地に身を寄せた。島津氏の援軍を敵と間違え、もはや打つ手無しと思い自刃にて果てた地と伝説が残っています。

①鍋割山（なべわりざん）
大多尾の象徴で、高さ243メートルの頂上からは不知火海の対岸、水俣方面を眺望できます。

大多尾は不知火海に面しており、漁業、そして温暖な気候を利用して、急傾斜ではありますが果樹を中心とした農業が盛んです。
縄文期に造られたと言われている古墳や支石墓群、安土桃山時代の武将・志岐麟泉を祀る麟泉宮、その他魅力ある伝説を持った歴史文化財が点在しています。
あたかも我々、後生の者たちを見守っているかのようです。それら史跡からは不知火海を見渡すことができ、素晴らしい景観に心癒すことができる地区です。

②天附の古墳群
天附に4基の古墳が残っており、そのうち1基は完全なもので、時代は5世紀末と推定されています。この古墳は石で家をつくり、その中に死人を葬り、まわりに石を積み、土で覆っています。

⑰慘傀山（ざんぎざん）
小宮地と大多尾の境界に帯状に伸びる屏風連山に慘傀山があります。切り立った岩の頂上からは、八代海を挟み眼下に鹿児島県獅子島、対岸には水俣や八代などを見下ろせます。

⑱馬の足跡
その昔馬の放牧場があり、暴れ馬がここから長島まで飛ぼうと試み、物凄い勢いで大きな石を蹴ったが、向こう岸に飛ぶことが出来ず、足跡が付いたと伝えられています。

⑮城山（しろやま）
鎌倉時代、この地を治めていた宮路弥治郎が海の守りを堅めるために築いた城の跡です。

⑭下大多尾十五社宮
石とうろうは明治12年に建立され、本殿は明治25年に建立されました。

⑪大多尾漁港
天草でも有数の漁港で、防波堤には多くの釣り客が訪れます。

⑤天神山の支石墓群
弥生時代のもので、支石墓としてはこの大多尾、倉岳町棚底の外には見当たらない規模のものとなっています。

⑥天満宮
明治38年5月3日に鳥居が建立されました。参拝殿があります。

③経塚（きょうづか）
志岐麟泉の死後、麟泉の家臣の手による遺骨掠奪を恐れた大多尾の住民は、墓地に近づくことを強く監視していました。このため麟泉の家臣らは仕方なく墓地の北側に礼拝堂を設け、何百人もの人たちが真心を込め運んだ石に経文を書いて積み上げ、主君の冥福を祈ったそうです。

⑦大多尾十五社宮
文政13年(1830年)8月に鳥居が建立されています。

⑬新和B&G海洋センター
アリーナ、武道場、屋根付きプールなどがあり、地域の青少年のスポーツ活動の拠点して利用されています。

⑫惣兵衛（そうべい）が石
その昔、石切の惣兵衛という人が大事にしていたと言われる高さ4m、周囲7mの巨石です。

⑩金毘羅宮（こんびらぐう）
平成27年3月に現在の場所に移設されました。海上安全大量祈願を願って、台座は船の形をしています。

⑨恵比寿大神宮
平成11年11月に現在の場所に移設されました。蛭子神、石とうろうがあります。

⑧海潮寺
曹洞宗明栄寺の末庵として登記され、昭和17年5月17日寺格を昇格し海潮寺となりました。境内からは、大多尾中心部を一望できます。